

兵庫医科大学総合診療専門医プログラム(日本専門医機構) 兵庫医科大学家庭医療専門医プログラム(日本PC連合学会)

【研修目標】

総合診療専門医は、今後の日本社会の急速な高齢化等を踏まえ、健康にかかわる問題について適切な初期対応等を行う新たな基本診療領域の専門医です。プライマリ・ケア医としての総合診療専門医の育成が目標となりますが、病院総合医やダブルボード、内科系サブスペシャリティ取得への連続性についても考慮されています。将来プライマリ・ケアに従事するが、領域別の専門医の取得を希望する人にとっても選択できるプログラムとなっています。また、新専門医制度に該当しない医師の方には家庭医療専門医プログラム(日本プライマリ・ケア連合学会)を用意しています。家庭医療専門医取得には3年間の研修が必要ですが、開業などのため地域医療研修を希望される場合には1年のプライマリ・ケア研修プログラムがあります。

学校法人兵庫医科大学では地域医療を担う医療人育成のために篠山キャンパスの整備・充実をすすめており、総合診療専門医プログラムは兵庫医科大学ささやま医療センターが基幹施設となります。

【到達目標】

本プログラムでは、総合診療専門研修Ⅰ(健診、保健指導などの予防医療と外来診療・在宅医療を含めた地域包括的リハビリ)、総合診療専門研修Ⅱ(病棟診療、救急診療中心)、内科、小児科、救急科の5つの必須診療科と選択診療科で3年間の研修を行います。このことにより、総合診療専門医に欠かせない以下の7つの資質・能力を効果的に修得することが可能になります。

1. 包括的統合アプローチ

わが国の医療制度や地域の医療文化と保健・医療・介護・福祉の現状を把握した上で、地域の保健・医療・介護・福祉事業に対して、積極的に参画する能力を身につける。

- ① 疾患のごく初期の未分化で多様な訴えの初期診療に対応し、また複数の問題を抱える患者に対しても、安全で費用対効果に優れ、不確実性や自己の限界を踏まえた医療・ケアを提供する能力を身につける。
- ② 地域住民が最初に受診する場において、見逃しがなく安全で効率的な医療・ケアを提供するために、適切な臨床推論の能力を身につける。
- ③ 日常診療を通じて、恒常的に健康増進や予防医療、リハビリテーションを提供することができる。
- ④ 医師・患者関係の継続性、地域の医療機関としての地域住民や他の医療機関との継続性、診療情報の継続性などを踏まえた医療・ケアを提供する能力を身につける。

2. 一般的な健康問題に対する診療能力

- ① 総合診療の現場で遭遇する一般的な症候及び疾患への評価及び治療に必要な身体診察及び検査・治療手技を経験する。
- ② 一般的な症候に対し、臨床推論に基づく鑑別診断および、他の専門医へのコンサルテーションを含む初期対応を適切に実施し、問題解決に結びつける経験をする
- ③ 一般的な疾患・病態について、必要に応じて他の専門医・医療職と連携をとりながら、適切なマネジメントを経験する。
- ④ .適切な医療・介護連携を行うために、介護保険制度の仕組みやケアプランに則した各

種サービスの実際、更には、介護保険制度における医師の役割および医療・介護連携の重要性を理解して必要な活動を地域で経験する。

- ⑤ 地域の医師会や行政と協力し、地域での保健・予防活動に寄与するために、必要な活動を経験する。

3. 患者中心の医療・ケア

患者との円滑な対話と医師・患者の信頼関係の構築を土台として、患者中心の医療面接を行い、複雑な家族や環境の問題に対応するためのコミュニケーション技法とその応用方法を修得する。

4. 連携重視のマネジメント

患者や家族、地域にケアを提供する際に多職種チーム全体で臨むために、様々な職種の人と良好な人間関係を構築し、リーダーシップを発揮しつつコーディネートする能力を身につけ、切れ目のない医療および介護サービスを提供するために、医療機関内のみならず他の医療機関、介護サービス事業者等との連携が円滑にできる能力を身につける。また、所属する医療機関の良好な運営に寄与するために、組織全体に対するマネジメント能力を身につける。

5. 地域包括ケアを含む地域志向アプローチ

医療制度や地域の医療文化と保健・医療・介護・福祉の現状を把握した上で、地域の保健・医療・介護・福祉事業に対して、積極的に参画する能力を身につけ、地域の現状から見出される優先度の高い健康関連問題を把握し、その解決に対して各種会議への参加や住民組織との協働、あるいは地域ニーズに応じた自らの診療の継続や変容を通じて貢献できる。

6. 公益に資する職業規範

医師としての倫理性、総合診療の専門性を意識して日々の診療に反映するために必要な知識・態度を身につけ、常に標準以上の診療能力を維持し、さらに向上させるために、ワークライフバランスを保ちつつも、生涯にわたり自己研鑽を積む習慣を身につける。また、総合診療の発展に貢献するために、教育者あるいは研究者として啓発活動や学術活動を継続する習慣を身につける。

7. 多様な診療の場に対応する能力

外来医療: 幅広い疾患や傷害に対して適切なマネジメントを行うために、必要な知識・技術・態度を身につける。

救急医療: 緊急性を要する疾患や傷害に対する初期診療に関して適切なマネジメントを行うために必要な知識・技能・態度を身につける。

病棟医療: 入院頻度の高い疾患や傷害に対応し、適切にマネジメントを行うために必要な知識・技能・態度を身につける。

在宅医療: 頻度の高い健康問題に対応し、適切にマネジメントを行うために必要な知識・技能・態度を身につける。

【レジデントAカリキュラム】

1年次は、「人を診る地域を診る」がテーマです。自分で患者を診療し、患者の情報を過不足なく明確に指導医や関連職種に報告し、健康問題を迅速かつ正確に同定することを目標とします。総合診療ⅠもしくはⅡ6ヶ月で、健診や保健指導を含めた外来診療、在宅診療を指導医とともに業務として担当します。また救急科3か月、小児科3か月を研修します。地域を診て

自分たちに求められているものを考える経験をします。

【レジデントBカリキュラム】

2年次は、「深める」がテーマです。兵庫医科大学病院総合診療科で内科を研修します。医学部付属病院の環境を生かした研修により、総合的な内科に加えて、臨床推論、画像診断、EBM などについて深く学びます。家庭医療専門医プログラムでは、内科が6か月、総合診療Ⅱの研修が6か月になります。

【レジデントCカリキュラム】

3年次には、実際の現場で、またはサブスペシャリティにつながるように総合診療を「活用する」がテーマです。多疾患合併で診断や治療プロセスに困難さがあつたり、患者を取り巻く背景も疾患に影響したりしているような複雑な健康問題に対しても的確なマネジメントを提供することができ、かつ指導できることを目標とします。サブスペシャリティへの連続性も考慮しながら総合診療専門医の能力を高めていきます。

専門医制度と学会プログラムの比較

	兵庫医科大学 総合診療専門医プログラム (日本専門医機構)	兵庫医科大学 家庭医療専門医プログラム (日本プライマリ・ケア連合学会)
対象	2017年3月以降初期研修終了者	左記以外
定員等	定員4名(審査中) 登録開始は10月10日から 問い合わせや見学は随時可能	定員2名 応募、見学、相談：随時可能
総診Ⅰ	兵庫医科大学ささやま医療センター総合診療科(へき地診療所研修含む) (6か月)	
総診Ⅱ	兵庫医科大学ささやま医療センター内科 柏原赤十字病院総合診療科 多可赤十字病院総合診療科 兵庫医科大学病院総合診療科 (6か月)	兵庫医科大学ささやま医療センター内科 柏原赤十字病院総合診療科 多可赤十字病院総合診療科 (6+6か月)
内科	兵庫医科大学病院総合診療科 (12か月)	兵庫医科大学ささやま医療センター内科 兵庫医科大学病院総合診療科 (6か月)
小児科	兵庫医科大学ささやま医療センター小児科 (3か月)	
救急科	兵庫医科大学ささやま医療センター救急科 (3か月)	

総合診療専門医プログラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	兵庫医科大学ささやま医療センター／柏原赤十字病院 総合診療科						兵庫医科大学ささやま医療センター 救急科			兵庫医科大学ささやま医療センター 小児科		
2年	兵庫医科大学病院 総合診療科(内科)											
3年	兵庫医科大学ささやま医療センター その他						多可赤十字病院／兵庫医科大学ささやま医療センター 総診Ⅱ／総診Ⅰ					

家庭医療専門医プログラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	兵庫医科大学ささやま医療センター/柏原赤十字病院						兵庫医科大学ささやま医療センター			兵庫医科大学ささやま医療センター		
	総合診療科						救急科			小児科		
2年	兵庫医科大学病院/兵庫医科大学ささやま医療センター						兵庫医科大学ささやま医療センター					
	総合診療科(内科)						内科(総診Ⅱ)					
3年	兵庫医科大学ささやま医療センター						多可赤十字病院/兵庫医科大学ささやま医療センター					
	その他						総診Ⅱ・総診Ⅰ					

プライマリ・ケア研修プログラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	兵庫医科大学ささやま医療センター											
	総合診療科・救急・その他領域別診療科											

【教育に関する行事】

- 月1回 ささやま合同カンファレンス
- 3～6か月に1回 プログラム責任者との面談指導

【関連病院・診療所】

- 基幹施設: 兵庫医科大学ささやま医療センター
- 連携施設: 兵庫医科大学病院、柏原赤十字病院、多可赤十字病院、
篠山市国民健康保険草山診療所、同東雲診療所、同今田診療所

【指導医】

- 総合診療: 片山 覚、有井 融、和田陽介、近藤秀行(ささやま医療センター)
新村 健、太田好紀、楠 博(兵庫医科大学病院)
下村壯治(柏原赤十字病院)
武地美保(多可赤十字病院)
- 内科: 新村 健、渡 二郎(兵庫医科大学病院)、有井 融(ささやま医療センター)
- 救急科: 有井 融(ささやま医療センター)
- 小児科: 峰 淳史(ささやま医療センター)
- 整形外科: 岡山明洙(ささやま医療センター)
- リハビリ科: 和田陽介(ささやま医療センター)
- 産婦人科: 池田義和(ささやま医療センター)
- 外科: 河合 孝(ささやま医療センター)
- 放射線科: 井上淳一(ささやま医療センター)
- 臨床疫学: 森本 剛(兵庫医科大学臨床疫学)

【研修統括者】

- 片山 覚 (兵庫医科大学ささやま医療センター)

【問い合わせ】

兵庫医科大学ささやま医療センター 地域総合医療学教室 辻井、吉田

Tel : 079-552-7330(直通) 079-552-1181(代表)

Fax:079-552-7534

E-mail : arai0216@hyo-med.ac.jp